

みどりのゆび

諏訪中央病院グリーンボランティア通信 No.124号 2022年6月22日発行

春のバザーを終えて

“お客さんになりたい!”と、思ってしまうバザーでした。タッジーマッジー・クリスマスローズのドライ・多種の苗や雑貨…会員のみなさんのパワーに支えられた暖かみのある品々が並んでいました。準備も含めて、メンバーとの親交も深まるチャンスですね♪



また、エリ子先生とのお庭一周に参加させていただき、改めてこの庭の素晴らしさに感激しました。レデースマントルの花で作ったブレスレットをクルンとつけられ、植物たちを見て触ってのお話にも、虫さんとも雑草とも程々にお付き合いし、“ようこそ”と言える庭作りを目指したいと思いました。 [佐藤]

樹木の伐採について



病院の庭も木々が年々成長して日陰となる所が随分と増えました。適度な木陰は素晴らしいことですが、密生した部分は風通しが悪く、日なたを好む陽生の草花には日光不足の傾向が表れ始めました。

昨年の秋、私たちは庭の全体を皆で見て回り、意見を共有した上で『樹木の枝打ち・伐採』なる図を作りました。あくまでも希望として病院の総務課に相談したところ、業務課、管財課のご協力を得て予算の都合の付く範囲で伐採を実施するとの好意ある返答を頂きました。

実施案は全体をA～Gの7つのグループに分けましたが、今回はBのアカマツ1本とカラマツ2本、Cのカラマツ5本の合計8本を対象とすることとなりました。業者から相見積を取り、2月23日の雪の積もっている寒い日に実施されました。作業は4人の方によって手際よく行われ、なんと1日で後処理も含めて完了しました。レンガテラス横の大きなケヤキの周りです。随分と風通しが良くなりました。

伐採した切り株の年輪を数えてみると、1本を除き他の7本はいずれも25～26年の樹齢を示していました。顧問の萩尾エリ子先生の資料によると、病院の増築完成時に有志の方々とグリーンボランティアを立ち上げたのが平成10年(1998年)4月、今からちょうど24年前です。病院増築のために造成した土地の斜面に近隣から種子が飛来して育ったのがこれらの木々であっ



たと推定できます。グリーンボランティアと共に時を刻んだ木々であったといえます。しかし、年輪の最後の約 10 年間は目が極端に詰んでいて、繁茂した結果、密生し過ぎて成長が悪くなっていたことも物語っています。 [金子]

総務課長が交代しました

初めまして、6月1日より総務課長に就任し「グリーンボランティア」に関わらせていただくことになりました、武居真（たけい しん）と申します。



総務課所属が長く事務室がまだ小さかったころから、「グリーンボランティア」の活動をみてきました。投書箱には庭園に癒されるといった投書も多く、患者さんばかりか職員にとっても心の癒しとなっております。何かありましたら、武居の方にお気軽にお声掛け、ご相談ください。今後とも変わらぬご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

新しいメンバーです

◎茅野と自宅（現在は千葉）を行き来すること 30 年、そろそろ茅野定住を考えています。趣味は散歩と読書と雑草？取りです。ハーブは初心者ですが、先輩方に教えて頂いて、皆さんに愛されているガーデンのお手伝いができることを喜んでいます。 [戸澤寛子]

コラム No.18 ”バラと暮らす“



17 年前の秋、夫が近所の店で 2 本の苗木を買ってきたのがバラにはまるきっかけでした。翌春、新芽が出て元気に育つ様子がうれしく、あちこちのバラ園へ行って苗を購入したり、笛吹市のバラの専門店の講習会に通って剪定や植え替え等を学び、数が増えました。

自宅から少し離れている畑にはビニールハウスの骨組みを建て、バラのトンネルを夢見てつるバラを 4 本植えました。けれど、虫もつくし、病気も発生するので、学んだことを実践すべく定期的に消毒に励んだのですが、花を楽しむよりも病気の兆候にばかり気持ちが向いて、バラの世話に疲れてしまったのです。そこで、堆肥と肥料をきちんと入れて木の持つ力をパワーアップすることにし、消毒作業は頑張らないことにしました。6 年前病気になり、バラの手入れが何もできない年がありました。1 年たった夏の日にバラのトンネルへ行くと、棘のない「コーネリア」の枝が重なった所に鳥の巣があるのです。のぞくと、無事巣立ったようでした。人が来ないことで鳥が安心して子育てできたかと思うと、うれしい出来事でした。 [遠藤]

◎夏時間のお知らせ 8月の作業：9：00～11：00（その後ミーティング）